

第 1 学年道徳指導案

平成 17 年 10 月 28 日 (金) 1 校時

1 年 2 組 (男 14 名 女 13 名 計 27 名)

指導者 梶本 圭子

1 主題名 こまっているともだちに (2 - (3) 友情・信頼、助け合い)

2 資料名 くりのみ (出典 学研)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第 1 学年及び第 2 学年の内容項目 2 - (3) は「友達と仲よくし、助け合う。」となっている。友達との間に信頼と友情及び助け合いの精神をもった児童を育てようとする内容項目である。主に第 3 学年及び第 4 学年の内容項目 2 - (3) の「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」に発展し、第 5 学年及び第 6 学年の内容項目 2 - (3) の「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」に発展していく。

よい友達関係を築くには、互いを認め合い、様々な場面での学習活動や生活を通して助け合い、理解し合い信頼感や友情を育てることが大切である。

この時期の児童は、少しずつ仲間意識、友達とのかかわりを考える場面が出てきており、友達がいることの楽しさ、よさを少しずつ実感し始めている。そこで、身近にいる友達と仲よくし、その時々相手の立場を考え、困っている友達を進んで助けていくことを大切にする気持ちを育てていきたいと考える。

(2) 児童について

本学級の児童は、入学した 4 月から、休み時間や学習の時間、清掃などの各活動の時間や運動会などの行事を通して、様々なことを友達同士のかかわり合いの中で学んできた。その中で友達と一緒に何かをすることの楽しさや充実感を感じてきた。しかし、児童によっては、この時期特有の自己中心的な行動で、自分のことだけしか考えられないこともよくある。そのために相手のことを考え、助けたり励ましたりすることのよさに気づいておらず、近くの困っている友達に目が向かないままの行動をとってしまっていることもよくある。

そこで、相手の立場について考えることや相手を助けることについて考えさせ、特に困っているときは進んで相手を助けることの大切さについて理解を深めさせていきたい。

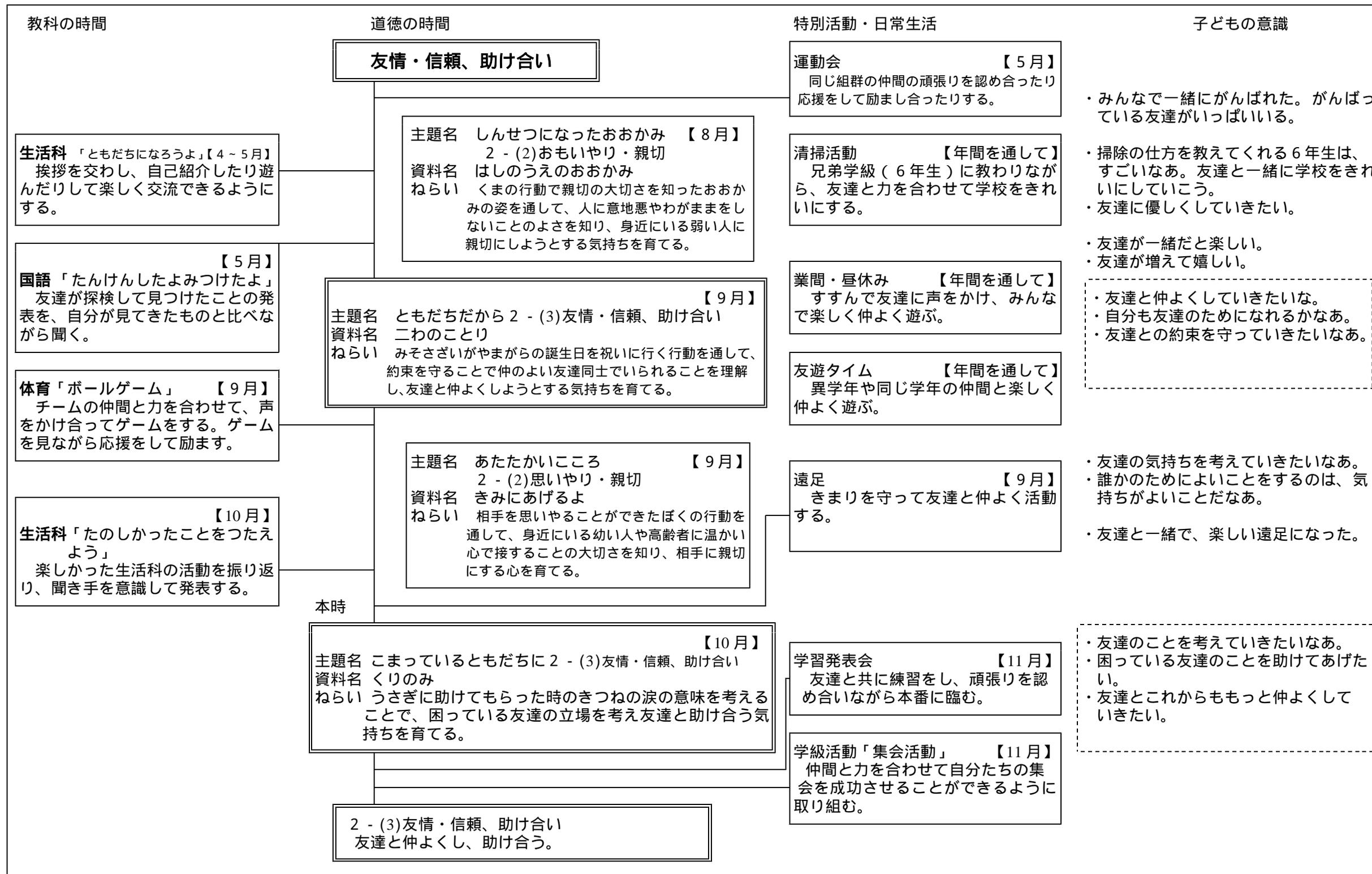
(3) 資料について

本資料はきつねとうさぎの 2 匹が登場して展開される物語である。ある寒い日、友達のきつねとうさぎがおなかをすかせて出会い、それぞれ食べ物を探しに出かける。その後、きつねはたくさんのどんぐりを見つけおなかいっぱい食べ、残りはかくす。うさぎに再会した時、「なんにもなくてはらぺこです。」と嘘をついたきつねに、うさぎはたった 2 つしかないくりのみの 1 つを分け与える。きつねがその行為になみだをこぼすという内容である。きつねの思いを行動を追いながら掘り起こしていくことを通して、自己中心的な自分の行動に気づき、困っている友達を助けようとする心を育てていくのに適した資料であるといえる。

(4) 授業の構想について

ねらいとする価値の理解を深めるために、資料を読む段階で、登場人物の 2 匹の状況をしっかりと把握させたい。そして、きつねがどんぐりを見つけおなかいっぱい食べるまでの場面と、再会してうさぎがきつねにくりのみを与えた場面のそれぞれのきつねの気持ちに共感させていきたい。そのために、きつねについては、どんぐりを食べる場面で動作化を取り入れ、自分本位な考えをとらえさせていきたい。さらにその後、くりのみを分け与えてもらう場面で役割り演技を取り入れ、友達のことを考えたうさぎのやさしさに十分共感させていきたい。この時、うさぎについては困っている友達のきつねの立場を考え、たった二つしかないうちの一つを分け与えるという行動についてしっかりと把握させておきたい。「見つめる」段階では、児童自身の今までの経験について振り返らせ、自分にも友達を助けようとする気持ちがあることに気づかせ、これからもさらに友達と助け合っていこうとする気持ちを育てていきたい。

4 全教育活動における本時の位置づけ



5 本時の指導

(1) ねらい うさぎに助けてもらった時のきつねの涙の意味を考えることで、困っている友達の立場を考え友達と助け合う気持ちを育てる。

(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	指導上の留意点や支援
<p>気 づ く</p> <p>10 分</p>	<p>1 入学した時から今までを振り返り、友達に手伝ってもらったことについて発表する。 今までに困っていたときに友達に助けってもらったことはありますか。それは、どんなことですか。</p> <p>2 資料を読んで感想を発表し、今日の学習のねらいをもつ。 このお話を読んでどう思いましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食をこぼした時、一緒にふいてくれた。 ・ けがをした時、大丈夫と声をかけ、保健室と一緒にいってくれた。 ・ うさぎさんは優しい。 ・ きつねさんは、おなかいっぱい食べられてよかった。 ・ きつねさんはどうして泣いたのかなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の中での友達とのかかわりを想起させ、友達に助けってもらった経験から価値への方向付けを図る。 ・ きつねへの感想をもとに学習課題をたてる。
<p>深 め る</p>	<p>3 「きつね」の気持ちについて話し合う。 きつねはうさぎと別れた後どんなことを思っていたでしょう。</p> <p>きつねはおなかいっぱい食べた後、どんな気持ちでどんぐりをかくしたのでしょうか。</p> <p>きつねはどんな気持ちで「なんにもなくてはらべこです。」とうさぎに言ったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何も見つからなかったらどうしよう。 ・ おなかですいたなあ。 ・ 食べ物がたくさん見つかるといいなあ。 ・ うさぎさんも見つかるといいなあ。 ・ 明日も、食べることができるぞ。うれしいなあ。 ・ これで安心だ。 ・ これで、全部ぼくのものだ。だれにもあげたくない。 ・ うさぎさんにあげたくない。 ・ 残りも全部食べたい。 ・ 一人じめしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2匹が友達であることや寒い中、共におなかをすかせている状況であることを把握させ、その上できつねの気持ちを考えさせたい。 ・ 動作化を取り入れ、きつねがこれからの自分のことだけを考え、かくしたことをとらえさせたい。 ・ かくしたどんぐりのことが頭にありながらも目の前のうさぎにとっさに言ってしまった状況を把握させながら、

30分	<p>きつねは、うさぎにもらったくりのみをにぎしめ、涙をぽろっとこぼしたときどんな気持ちだったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎさんごめんね。 ・うさぎさんありがとう。 ・うさぎさん優しいなあ。 ・うさぎんさんは、ぼくのことを考えてくれていたんだ。 ・うさぎさんのことを考えてあげられればよかった。 	<p>自分本位なきつねの心情に共感させたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きつねが困っていると 思い、たった二つしかないくりのみの一つをきつねにあげたうさぎの行動を押さえさせ、その上で役割演技を取り入れる。うさぎの相手を考えられる温かい行動に気づくことで涙をこぼしたきつねの気持ちをとらえさせたい
見 つ め る 3分	<p>4 今までの自分を振り返る。 今までに困っている友達を助けてあげたことはありますか。そして助けてあげてどんな気持ちになりましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食をこぼしたとき、床と一緒にふいてあげた。 ・うれしい気持ちでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている友達を助けてあげた経験に目を向け、その時の気持ちを発表させることで、自分も友達を助ける気持ちをもっていたことを自覚させたい。
ま と め る 2分	<p>5 教師の話聞き、学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくも困っている友達を助けてあげたい。 ・わたしも友達のことをもっと考えてあげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている時、友達を助けたことやお互い助け合うことの大切さを教師の説話でまとめる。

6 板書計画

くりのみ

「みつつけたので、一つあげます。」

「きつねさん、なにかみつかると思いますね。」

たすけあうところ

うさぎの絵

- ・うさぎさんやさしいなあ。
- ・うさぎさんありがとう。
- ・うさぎさんは、ぼくのことをかんがえてくれていたんだ。

きつねの絵

- ・うさぎさんにあげたくない。
- ・のこりもせんぶたべたい。
- ・ひとりじめしたい。

- ・なにもみつからなかったらどうしよう。
- ・おなかすいたなあ。
- ・たべものが、たくさんみつかるといいなあ。
- ・うさぎさんもみつかるといいなあ。

きつねがどんぐりに落ち葉をかぶせる絵

どんぐりの絵

- ・あしたもたべられる。
- ・あんしんだ。
- ・だれにもあげたくない。
- ・せんぶぼくのものだ。

7 資料分析

(1) ねらい
(2) 資料名

うさぎに助けもらった時のきつねの涙の意味を考えると、困っている友達の立場を考え友達と助け合う気持ちを育てる。
くりのみ(出典 学研)

主な場面	二ひきが出会い、食べ物をそれぞれ探しにいこうとする場面	きつねがどんぐりを見つけ、それを食べ、残りを落ち葉で隠した場面	「なんにもなくてほらぺこです。」とうさぎに言った場面	うさぎがくれたくりのみをにぎりしめ、涙をぼろっとこぼす場面
把握すべき状況	<ul style="list-style-type: none"> ・きたかぜのふくさむいひ ・二ひきはともだち ・二ひきともおなかがすいていてたべものをさがしにいくところ 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりがたくさん落ちている ・おなかいっぱいたべた ・のこりにおちばをかぶせてかくした 	<ul style="list-style-type: none"> ・かえりみちうさぎにあう ・「きつねさん、なにかみつかりましたか。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎは二つしかないくりのみの一つをきつねにわたす
主人公の心の動き	<p style="text-align: center;">友情</p> <p>不安 思いやり</p>	<p style="text-align: center;">安心 満足</p> <p style="text-align: center;">自分本位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しめた。これはいいぞ。」 ・「のこったぶんはどうしよう。」 ・おちばをかぶせてかくしました。 	<p style="text-align: center;">自分本位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なんにもなくて、ほらぺこです。」 	<p style="text-align: center;">友情 ・ 助け合い</p> <p style="text-align: center;">反省 感謝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くりのみをにぎりしめると、なみだをぼろっとこぼしました。
児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎさんも見つかるといいなあ。 ・食べ物がたくさん見つかるといいなあ。 ・おななかがすいたなあ。 ・何も見つからなかったらどうしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これで、安心だ。 ・明日も食べることができるぞ。うれしいなあ。 ・これで、全部ぼくのものだ。だれにもあげたくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人じめしたい。 ・うさぎさんにあげたくない。 ・残りも全部食べたい。 ・どんぐりを見つけたことは内緒にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎさんのことを考えてあげられればよかった。 ・うさぎさんは、ぼくのことを考えてくれていたんだ。 ・うさぎさん優しいなあ。 ・うさぎさんありがとう。 ・うさぎさんごめんね。
基本発問	きつねはうさぎと分かれた後どんなことを思っていたでしょう。	きつねはおなかいっぱい食べた後、どんな気持ちでどんぐりをかくしたのでしょうか。	きつねはどんな気持ちで「なんにもなくてほらぺこです。」とうさぎに言ったのでしょうか。	きつねは、うさぎにもらったくりのみをにぎりしめ、涙をぼろっとこぼしたときどんな気持ちだったでしょう。